

# アナトリア文明の特異性

## -カマン・カレホユック発掘調査を通して-

『この講演会では、三点に焦点を合わせたいと思っている。一つは、アナトリア高原の特異性である。そして、第二点目は、何故日本がアナトリア高原で発掘調査を行うのかと言うことである。そして第三点目は、この25年間調査を行ってきたカマン・カレホユック遺跡についての成果についてお話ししたいと思う。そして講演の中では何故アナトリア考古学研究所、カマン・カレホユック考古学博物館を設立したかについても触れ見たいと考えている』

## アナトリア高原の特異性とは何か

### 1 アナトリア高原の特異性

アナトリアの歴史を語る時、どうしても避けることの出来ないのはアナトリア高原の持つ地理的背景であろう。丘状の遺跡を一つでも掘り下げて見ると良い。そこには多くの民族が残した文化が包含されており、如何にアナトリア高原が民族の通過値として利用されていたかを鮮明に読み取ることが出来る。

### 2 アナトリアの遺跡の形態

アナトリアの遺跡は大きく分けて二種類ある。一つは丘状のホユック、テペ、テルと呼ばれるもの、そしてもう一つはドゥズイェルレシム・イェリと呼ばれる平らな遺跡である。丘状には重層した文化が堆積しているのに対して、平らな遺跡には数文化、あるいは単一の文化層を見ることが出来る。

### 3 遺跡は何から成り立っているのか

遺跡の多くは、石、日干煉瓦、そして家屋から排出される灰から形成されている。カラホユック、カラテペ、キュルテペ等の遺跡名を高原の至る所で見つけることが出来る。家屋から排出された灰によって遺跡全体が黒みがかっているところからこのような名称が付いたと言われる。

### 4 丘状のホユック、テペ

ホユック、テペ等の丘状の遺跡は、径200メートル、高さ15メートル前後であり、アナトリア全体では一万を超すものと思われる。このホユック等の遺跡には少なくとも数十の建築層が堆積しており、数千年の文化が重層的に眠っている。遺跡の立地条件として、河川の側、水辺が挙げられる。

## 何故アナトリアで考古学的発掘調査を行うのか

### 1 アナトリア高原は東西文明の坩堝

多くの民族が通過値と利用したこともあり、色々な文化がアナトリア高原のホユック等には堆積しており、それを発掘調査することにより歴史、考古学を研究する上での基本中の基本である『文化編年』を構築することが出来る。特に中央アナトリアには、5千～1万

年の文を重層的に持ち合わせたホユックが数多く点在している。正しく東西文明の接点とも言えるのが中央アナトリアであり、カマン・カレホユックが位置するクルシェヒル県である。

## 2 誰が『文化編年』を構築してきたのか

既述した様に、考古学の基本中の基本は『文化編年』である。これを無視しては歴史、考古学を語ることは出来ない。『文化編年』、つまり、簡単に言えば『歴史年表』である。これを作り上げてきたのは、欧米である。日本は一度としてこれを作ったことはなかった。常に欧米が構築した『文化編年』を一つの下敷きとして研究を進めてきており、現在も同じ流れの中にある。

## カマン・カレホユック発掘調査-1985～2010

### 1 日本として何をしなければならないのか

日本として一度もこの『文化編年』の構築を行なってきたいないことは既述した通りであるが、これを行なう上では莫大な経済的、時間的な投資が必要である。常に借物の『文化編年』、『歴史年表』を使いながらの歴史観を構築して行くのか、つまり、19～21世紀はトルコ、欧米の構築し『文化編年』を利用ながら今後も日本は研究を進めて行くのかが今問われていると言っても過言ではない。

### 2 カマン・カレホユックの位置と調査の主目的

トルコ共和国の首都アンカラの南東約100キロ、カマンの東約3キロに位置する丘状の遺跡で、約9千年を超す文化が堆積している。この遺跡の発掘調査は、1985年に予備調査を行い、1986年に本格的な発掘調査に入り現在に至っている。古代メソポタミア世界、古代南東ヨーロッパ世界の狭間に位置しているアナトリアが、歴史的、文化的に両地域に対してどのような役割を演じたかを解明することを調査の主目的の一つである。

### 3 カマン・カレホユック発掘調査の成果

『文化編年』の構築の作業を行ないながら、現在まで4文化層の確認を確認した。これまで欧米、トルコが築いた『文化編年』と比較すると、幾つかの大きな問題点が浮上してきている。例えば、鉄器開始時期の問題である。これまでの研究では前1200年頃を境として鉄器時代が始まると言われてきたが、カマン・カレホユックの発掘調査では前2000年前後には製鉄が始まっていたことが明らかとなってきた。また、ヒッタイト帝国が崩壊した前1200年頃から前8世紀までを歴史的、文化的に何も見るものがない、つまり『暗黒時代』を言われてきた。しかし、カマン・カレホユック発掘調査でこの450年間の時期は『暗黒時代』ではなく、輝かしい文化の存在していたことが明らかとなった。

日本トルコ文化協会講演会 2010年2月9日 18時00分

泉ガーデンコンフェランスセンター7F

大村幸弘 (おおむら・さちひろ)

(財) 中近東文化センター附属アナトリア考古学研究所